

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
城里町	坏地区 (上坏、下坏、粟)	令和4年3月31日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	346 ha
②農地利用状況調査に回答した農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	193 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	80 ha
後継者未定の農業者の耕作面積の合計(再掲)	74 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	18 ha
(備考) ④は、地区内の認定農業者、認定新規就農者等の経営改善計画書等に基づき算出しています。	

2 対象地区の課題

基盤整備がされた畑地は認定農業者に集積・集約化されているが、水田は兼業農家や自家消費を目的とした農業者が多く、圃場が分散している。70歳以上の農業者の多くが後継者未定であることから、今後、担い手不足になることが予想される。

坏地区は、種子用の水稻、麦、大豆生産を農業経営の軸とする農業者が多いため、病害虫のまん延や異物の混入を誘引する耕作放棄地を作らないように兼業農家も含めて地域全体で取り組んでいかなければならない。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地区内で営農している認定農業者、認定新規就農者等を中心経営体に位置づける。

実質化に向けた地域アンケートでは、自分が耕作できなくなったときには、地区内の担い手に貸し付けたいという回答が多かった。安定した担い手が確保できていることから、農業者間で利用調整を図り、規模拡大ができるように集積・集約化を進めていく。

また、種子の生産は手間がかかることから、規模拡大には限度があるため、引き続き後継者の育成に取り組んでいく。

注：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

<裏面に続く>

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		農業を営む範囲
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	
個人情報を含むため非表示						
計	11経営体	/	80.3 ha	/	98.3 ha	

注1：「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2：「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3：「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>【農地中間管理機構の活用方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圃場が分散していると受け手が確保できないため、地域の意向を把握し、農地をまとめて農地中間管理機構に貸し付けられるようにする。 ・制度の周知と出し手・受け手の確保に努める。
<p>【高収益化、販売先の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田転作においては湿害対策を徹底し、良質な農産物を生産する。 ・地域の伝統野菜「桂のレッドポアロー」の生産体制を維持するため、後継者の確保に努める。 ・担い手に集積しきれない農地においては、小面積でも高収益が得られる野菜等の栽培を奨励し、兼業農家の所得向上を図る。
<p>【鳥獣被害防止対策】</p> <p>野生鳥獣による農作物等への被害を防止するため、城里町鳥獣被害防止計画に基づき、鳥獣被害を防ぐ環境づくりをする。</p>
<p>【地域の共同活動】</p> <p>多面的機能支払交付金等の制度を活用し、地域の共同活動を継続し、地域資源の適切な保安全管理を推進する。</p>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集積が困難な農地については、家庭菜園や体験農園としての活用を検討する。 ・機械の共同利用、作業請負による兼業農家の負担軽減。